



GREEN×EXPO 2027の会場

Nature-based Design

GREEN×EXPO 2027では、会場計画地の環境を読み解き、かつて武蔵国と相模国の国境となった尾根地形や、南北方向の水の流れ、風の動き、残された樹林地等の自然資本を活かした会場づくり(Nature-based Design)を進めます。この上で5つのビレッジと3つのゾーンが展開され、日本の植物資源と文化を活かした園芸博覧会が繰り広げられます。



3つのゾーン

GREEN×EXPO 2027の骨格となる3つのゾーン。

国際展ゾーン

世界各国や国際的な花き園芸・造園企業による出展。世界の園芸文化、食農文化の多様性に出会う国際色豊かなゾーンです。

シンボルゾーン

GREEN×EXPO2027のテーマを発信するテーマ館のほか、花き品種、ガーデンデザインなどの多彩なコンペティションが展開される屋内出展施設を設けます。

日本ゾーン

日本政府による庭園及び屋内出展のほか、主催者による園芸文化展示、自治体等による出展が集結。日本の園芸文化の奥行きに触れることができます。

5つのVillage

GREEN×EXPO 2027独自の取り組みとなるテーマ共創事業としてGXを実現する5つの「Village」。

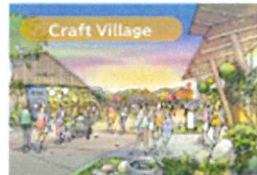
主催者と参加者がテーマを共有しながら、「幸せを創る明日の風景」の創出に取り組みます。



GXが実現する未来都市の風景を提案します。カーボンニュートラルを中心に、自然の力を社会課題解決に活かす技術(NbS)を世界に発信します。
GX分野 | 暮らし/まちづくり/建築・交通/環境・産業/再生可能エネルギー



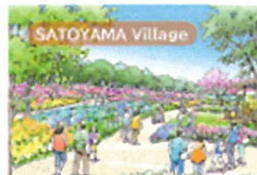
食と景が連携し、共存する「食」の風景を提案します。心身が満たされ、健康であること。そのほかさまざまなコンテンツを提案します。
GX分野 | 健康・食と農



生業に寄り添いながら多様な生業を生み出させてきた日本の都市を継承、自然と共に立つ、新たな産業を生み出す未来の担い手を提案します。
GX分野 | 暮らし/健康・食と農/生産者・自然環境



次世代を育う子どもたちの自然との触れ合い、楽しみながら学ぶことのできるコンテンツを準備。誰もが笑顔になれる風景を提案します。
GX分野 | 暮らし



市民の暮らしと美しい花を育み、生物多様性や都市と農村の連続性テーマにした学びのプログラムを構築する。新たな学びの風景を提案します。
GX分野 | 暮らし/生産者・自然環境

※2023年9月現在の予定。

3. 来場者輸送基本計画検討の前提条件

本計画における前提条件は、過去の類似の大規模イベントを基に推計した来場者数や交通機関分担率を用いて、以下のとおり想定する。なお、今後詳細な検討を進める中で、必要に応じて前提条件（数値）の見直し、更新を行う。

(1) 開催期間

2027年3月19日（金曜日）～9月26日（日曜日）

(2) 総来場者数

基本計画（2023年1月）において有料来場者数1,000万人以上を想定していることから、本計画においては、想定に対し1,200万人程度に対応できる計画を検討する。なお、エリア別総来場者数は以下のとおり想定する。

表1 エリア別総来場者数（想定）

	横浜市	その他神奈川県	東京・埼玉・千葉	その他全県	合計
来場者数	約220万人	約230万人	約475万人	約275万人	約1,200万人
割合	約18%	約19%	約40%	約23%	100%

(3) 来場者交通機関分担率

開催期間中の全来場者の交通機関分担率は以下のとおり想定する。

表2 開催期間中の全来場者の交通機関分担率（想定）

交通機関	公共交通機関	団体バス*	自家用車	徒歩等	合計
分担率	約33%	約27%	約34%	約6%	100%

※例：教育機関の教育旅行や観光ツアーによるバスなど

(4) 平均日來場者数

過去の類似の大規模イベントを基に来場者数を推計した場合、平均日來場者数は、平日平均（約130日）で約5.3万人/日、また、過去事例の傾向からゴールデンウィークや会期終盤といった来場者が集中する日（特異日・約10日間）を除くと休日平均（約50日）で約7.7万人/日を想定する。

表3 平均日來場者数（想定）

	公共交通機関	団体バス	自家用車	徒歩等	総来場者
平日平均（約130日）	約17,000人/日	約16,000人/日	約17,000人/日	約2,600人/日	約53,000人/日
特異日を除く休日平均（約50日）	約25,000人/日	約21,000人/日	約28,000人/日	約3,700人/日	約77,000人/日

※交通機関分担率は日別で異なることから、表2の「開催期間中の交通機関分担率（想定）」とは一致しない。
※休日とは土曜日、日曜日、祝日とする。

4.1 公共交通機関による輸送の考え方

複数の鉄道駅が利用可能である特性を生かし、公共交通機関で来場する場合は、会場近傍の鉄道駅まで鉄道を利用し、駅から会場までのアクセスは、シャトルバスでの輸送を基本とする。また、その他主要ターミナル等からの直行バスやタクシーについても検討する。

(1) 会場近傍の鉄道駅からのシャトルバスについて

会場近傍の鉄道駅からのシャトルバスについては、バス発着場が確保でき、会場へのアクセスが容易で効率的に運行できる4駅（瀬谷駅、三ツ境駅、南町田グランベリーパーク駅、十日市場駅）からの運行とし、図10のルート进行している。

ここでは、表4に示す設計基準（10.5万人/日）に対して想定する各駅を利用する来場者数（日、混雑時）、シャトルバス運行本数を表5に示す。

今後、本計画を基に、各駅における既存バスターミナルの活用やシャトルバス利用者の滞留空間の確保、会場におけるバスターミナルの整備、出入庫動線等を検討する。

また、必要に応じて駅からの徒歩来場やバスの運行本数及び各駅の来場者配分の見直し等の検討も進めていく。

運行する車両については環境配慮型車両（EVバス等）の導入の促進を検討する。



※輸送時間、道路の混雑状況等によりルートが変更になることがあります

図10 各駅からのシャトルバス輸送ルート（想定）

表5 シャトルバスの発着駅の来場者数及び運行本数の想定（設計基準10.5万人/日の場合）

駅名	日來場者数	混雑時の時間最大来場者数	混雑時の時間最大運行本数
瀬谷駅	約11,000人/日	約2,200人/h	約40本/h
三ツ境駅	約6,000人/日	約1,100人/h	約20本/h
南町田GP駅	約10,000人/日	約2,000人/h	約40本/h
十日市場駅	約13,000人/日	約2,500人/h	約50本/h
合計	約40,000人/日	約7,900人/h	約150本/h

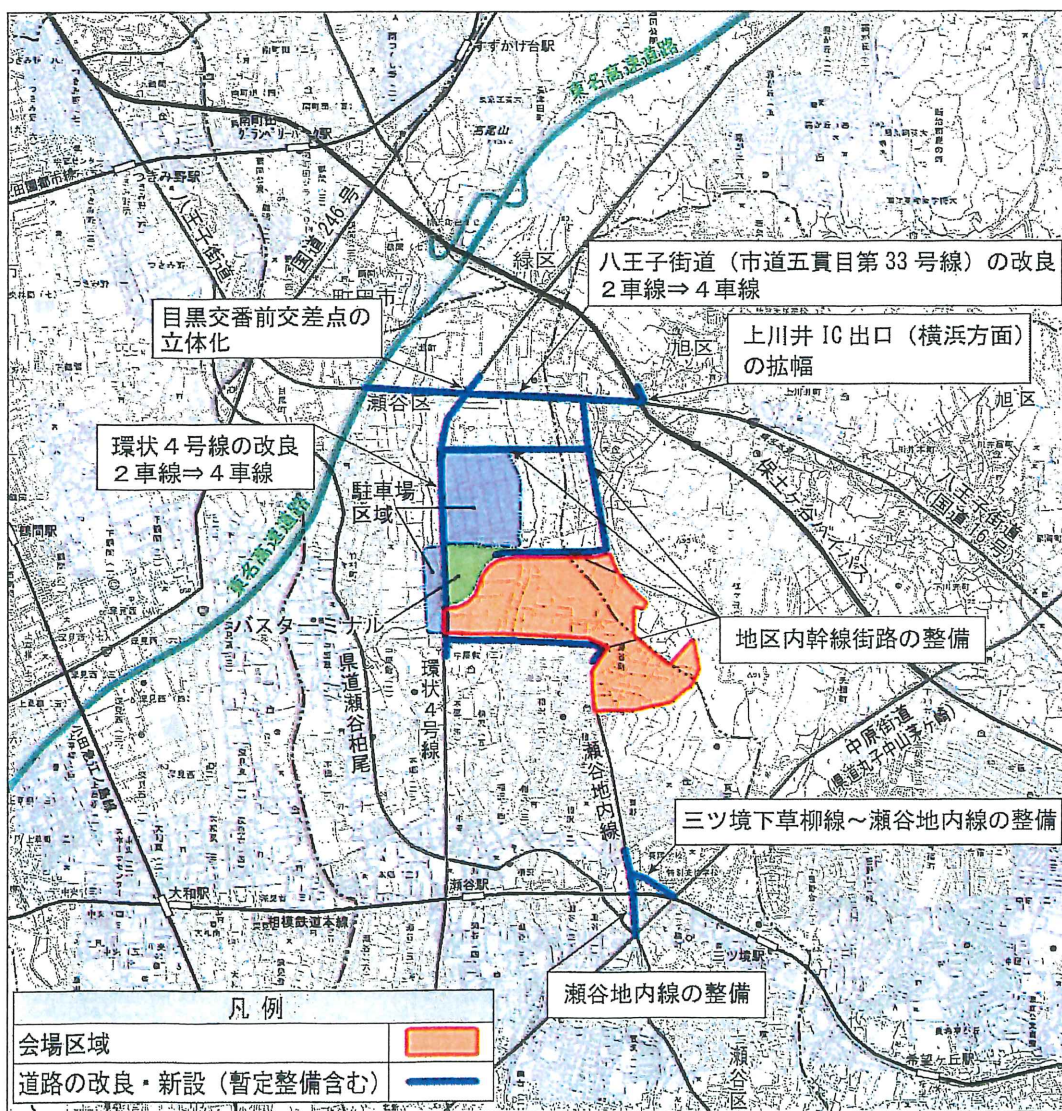
※各発着場において、複数バス（3～4バス）の設置を検討

(7) 園芸博覧会開催までに改良・新設を予定している道路

本計画では、横浜市が園芸博覧会開催までに改良・新設を予定している道路を前提条件とする。(図8)

横浜市では、園芸博覧会開催までに八王子街道(市道五貫目第33号線)の改良、上川井IC交差点の改良、環状4号線の改良、地区内幹線街路の整備、三ツ境下草柳線~瀬谷地内線の整備、瀬谷地内線の整備を予定している。

また、道路の改良・新設区間の一部において、自転車専用通行帯又は矢羽根型路面表示の整備を予定している。



出典：国土地理院地図を引用・加工

図8 園芸博覧会開催までに改良・新設を予定している道路